

平成22年度 かみがはらの埋文

各務原市埋蔵文化財調査センター年報 第19号

旗本坪内陣屋跡発掘調査



現在、那加新加納町字村内の一部では、大規模な土地区画整理事業が計画されています。対象地内には、埋蔵文化財「新加納旗本坪内陣屋跡」が所在するため、事業に先立ち、2011年1月から3月にかけて発掘調査を実施しました。

坪内氏とは、江戸時代に約7,000石の所領を持ち各務原市域の南西部を治めた旗本で、本家は新加納に陣屋を構えていました。

発掘調査の結果、陣屋推定地では、敷地を囲んだ壕の一部を確認。この壕は断面が逆台形を成し、幅は5.2m以上、深さは2.7~3.3mと規模が大きいことが特徴です。明治時代の絵図には、壕と土塁に囲まれた陣屋の様子が示されており、今回、その検証と正確な位置の特定ができたこととなります。

陣屋の東側では、調査によって、東西南北に走る溝跡や井戸跡を複数検出し、近世陶磁器が多いことが判明しました。溝は幅20cmから4.1m、深さは30cm~80cmと大小があり、およそ3段階の規格に整理されます。それぞれが連結しており雨水排水のための施設と考えられ、溝によって仕切られた範囲には住居や通路が構えられていたものと思われます。それらは、陣屋の関係者が生活した空間である可能性があります。

【現地説明会の開催】

3月12日(土) 現地説明会を行いました。

約200名もの方々にお越しいただき、学芸員の説明に熱心に耳を傾けていました。



炉畑遺跡再整理事業

現在、埋蔵文化財調査センターでは、昭和43年から昭和46年の間に発掘調査された、炉畑遺跡(県指定史跡)の再整理事業を行っています。この遺跡は、鶴沼三ツ池町に所在する縄文時代中期後半と晩期に形成された集落遺跡で、各務原を代表する遺跡のひとつです。

平成15年に行った調査も含め、これまでに、縄文時代中期後半の竪穴住居跡10基、堀立柱建物跡1基、屋外炉跡1基、複数の貯蔵穴群、そして晩期の土器棺墓5基などが検出されました。未発掘の部分にも、同種の遺構が多く埋没していると思われます。

炉畑遺跡は現在、復元住居を構えた遺跡公園として整備・公開されています。



再整理事業では、これまでに整理作業の出来なかったものはもちろん、すでにデータとして残してあるものまで、改めて見直しをかけています。

多数の土器の欠片から同じ器種のものを探し出して接合したのち、深鉢などの形に出来るものは修復・復元をします。その後、実測や写真撮影を行い、作業は完了です。

中学生職場体験

今年度も、市内の中学校から職場体験を受け入れました。各中学校から数名の生徒さんが、埋蔵文化財調査センターの仕事を体験しました。

実際に市内の遺跡から出土した土器や瓦を教材に、整理作業体験として水洗いや拓本、展示物の入替え作業などを行いました。

この埋蔵文化財調査センターの仕事内容を知るにはとても短い時間でしたが、現代の私たちが生活するこの地域にかつて重要な歴史があったことを学び、大切な文化財を守っていく必要性を実感してもらえたと思います。



夏の体験講座

今年も、夏休みに体験講座を実施し、多くの方々に参加していただきました。勾玉づくりや火おこしは力を使うので、小さな子どもさんには特に大変な作業でしたが、それぞれにこの夏の思い出の1つとして残ったことでしょう。

勾玉づくり



昨年使用した黒い高麗石こうらいせきに加え、今年はピンク色の石も用意。石が少し硬いため、小学校低学年の子どもさんには難しいと思われましたが、手助けをしながら作業をし、短い時間にもかかわらず1つは完成させることが出来ました。残りの材料は自宅へ持ち帰ってもらいました。じっくりと自分だけのオリジナル作品を作っていただけではないかと思えます。

拓本取り

今年を受講者の中には、昨年も参加された小学生のお子さんもあり、市内の山田寺跡さんでんじあとから出土した軒丸瓦のきまるがわらの拓本取りおうつにチャレンジしてもらいました。大きな遺物は凹凸やカーブがあって難しいものですが、昨年同様、大変上手に作業を進め、納得のいく出来上がりとなりました。



火おこし

火おこしは、マイギリ式という方法を用います。これは古代の火おこし法とは異なりますが、比較的容易よういに火をおこすことが出来ます。とはいえ、コツと持久力が要求され、なかなか簡単にはいきません。

それでも多くの方は自分の力で諦めずに作業を続け、最後には麻紐あさひもに火種ひだねを移し、息を吹きかけて、火をおこすことに成功しました。



続・かかみ野古代史紀行

「古墳と古代の道」をテーマに専門分野の先生方をお招きし、全3回の歴史講座を開講しました。講座の内容をまとめた講義録を、来年度発行する予定です。

開講日	講師	演題
10月6日(水)	可児市役所 長瀬 治義 氏	ほうふん 方墳の時代
10月20日(水)	前(財)岐阜市文化振興事業団 埋蔵文化財調査事務所 所長 藪下 浩 氏	こどう 峠の古墳と古道
10月27日(水)	南山大学名誉教授 伊藤 秋男 氏	ことうさんどう 美濃の古墳と古東山道



第1回 長瀬氏



第2回 藪下氏



第3回 伊藤氏

《石器など資料の寄贈を受けました》

市内那加桐野在住の方より、石鏃や打製石斧などの石器類、縄文土器など、計256点もの資料を寄贈していただきました。多くは縄文時代のもので、石器類に関してはほとんどのものが完形で大変貴重な資料です。これらは、採取された場所から、六軒遺跡の遺物であることが分かりました。

来年度は、市内から出土した土器や石器の鑑定を行う予定です。ご自宅で保管されているものや採取資料がありましたら、センター事務室までお持ちください。

打製石斧



ゆうぜつせんとうき いしろう せきぞく
有舌尖頭器・石槍・石鏃



縄文土器



だいし とし いしざら
台石・砥石・石皿



寄贈資料の一部

「かかみがはらの埋文」第19号 平成23年3月発行
各務原市埋蔵文化財調査センター
〒504-0911 岐阜県各務原市那加門前3-1-3
各務原市立中央図書館3階
TEL 058(383)1123 FAX 058(371)1145
<http://www.city.kakamigahara.lg.jp/maibun>